



J. FRONT RETAILING

2010年 10月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年9月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	9月度
百貨店業	▲ 5.6 (▲3.7)
スーパーマーケット業	▲ 1.2
卸売業	▲ 15.0
その他事業	17.9
連結合計	▲ 4.5

(注) 百貨店業合計の（ ）内は松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)、
 松坂屋名古屋駅店(2010年8月29日営業終了)を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・ 9月度の百貨店事業の売上高は、全社共通で実施した「秋のサンクスフェスティバル」や「総額1億円プレゼント大抽選会」などの販促による嵩上げ効果があったものの、月前半の厳しい残暑により秋冬物ファッションの定価商材の動きが鈍かったほか、前年に比べ休日が▲1日減であったことに、梅田店の大規模改装工事の影響(前年に比べ面積約▲54%減)も加わり、大丸松坂屋百貨店直営店は対前年▲3.9%減、関係百貨店を加えた百貨店事業合計は同▲3.7%減となった。

2) スーパーマーケット業

- ・ ピーコックストアは、残暑で飲料、アイスクリームが売上を伸ばしたほか、たばこ値上げ前の需要増による押し上げ効果もあり、首都圏では青山店、自由が丘店など28店舗が、関西地区も新神戸店、泉北晴美台店など19店舗が前年を上回り、関西は地区合計でプラスとなった。全店合計は、既存店ベースでは前年を上回った(対前年0.4%増)が、閉鎖店舗(常盤平店、東池袋店など計6店舗)の影響により、対前年▲1.2%減となった。
 地区別では、首都圏が対前年▲1.1%減、関西地区が同 1.2%増、中部地区が同▲5.7%減であった。

3) その他

- ・ 卸売業の大丸興業は、食品やホームセンター向け商材など全般に苦戦し、対前年▲15.0%減となった。
- ・ その他事業は、各種商業施設の内装工事等が好調であったJ.フロント建装が牽引した。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年9月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	9月度	
	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	25.0	72.9
大丸 梅田店	▲38.0	▲22.3
大丸 東京店	▲11.6	▲6.9
大丸 ららぽーと横浜店	▲3.3	-
大丸 浦和パルコ店	0.3	-
大丸 京都店	▲3.9	▲1.0
大丸 山科店	▲18.8	-
大丸 神戸店	▲5.6	▲0.4
大丸 新長田店	▲0.3	-
大丸 須磨店	2.5	-
大丸 芦屋店	▲4.8	-
大丸 札幌店	4.9	3.1
松坂屋 名古屋店	▲3.7	▲2.4
松坂屋 上野店	5.0	2.1
松坂屋 静岡店	▲6.7	▲1.6
松坂屋 銀座店	▲10.3	43.8
松坂屋 高槻店	▲20.3	6.8
松坂屋 豊田店	▲3.2	4.8
大丸松坂屋百貨店合計	▲3.9	4.5
博多大丸	▲1.8	▲2.1
下関大丸	▲3.6	▲1.5
高知大丸	▲5.7	▲2.3
百貨店事業合計	▲3.7	-

(注1) 合計の前年は、松坂屋岡崎店（2010年1月31日営業終了）、松坂屋名古屋駅店（2010年8月29日営業終了）を除く。

前年に松坂屋岡崎店、名古屋駅店を含めた増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年▲6.0%減、百貨店事業合計 同▲5.6%減。

(注2) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち大丸合計は対前年▲3.9%減、松坂屋合計は同▲3.8%減。

(注3) 前年度まで高槻店に計上していた大阪法人外商統括部の売上は、本年度から心齋橋店に計上しています。また首都圏外商統合により、東京店の個人・法人外商、銀座店の個人外商の売上は上野店に計上しています。なお、外商移管の影響を除いた増減率は、心齋橋店 対前年20.9%増、東京店 同▲9.7%減、上野店 同▲0.5%減、銀座店 同▲2.6%減、高槻店 同▲2.8%減。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	9月度
紳士服・洋品	▲17.3
婦人服・洋品	▲2.6
子供服・洋品	▲2.4
その他の衣料品	▲12.6
衣料品計	▲5.4
身回品	▲9.9
化粧品	▲3.0
美術・宝飾・貴金属	0.7
その他雑貨	▲4.6
雑貨計	▲1.6
家具	▲3.4
家電	▲20.5
その他の家庭用品	5.1
家庭用品計	1.1
生鮮	0.6
菓子	▲3.6
惣菜	▲4.0
その他食料品	▲11.3
食料品計	▲4.3
食堂・喫茶	▲1.4
サービス	▲11.5
その他	18.0
合計	▲3.9

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、心齋橋店北館開設や京都店改装効果でヤング・ヤングアダルトファッションが好調を継続したものの、中旬までの残暑によるマイナスが響き、全体では前年を下回った。紳士服・洋品は、秋冬用のスーツ、ジャケットが苦戦し、身回品の婦人靴ではブーツの出足が鈍かった。雑貨は、化粧品がやや苦戦したものの、美術・宝飾は名古屋店の宝飾品・時計の外商催事が盛況であったことなどから前年を上回った。食料品は、梅田店改装工事による面積減の影響もあり苦戦した。